

俳句コンクール成績発表

S 25 専電 塚越 としを

〔兼題…初夏・薔薇・蜘蛛〕

【特選】ねこ一匹見えぬ端島はしまや初夏の昼 S 30 学機 檜山 邦良

評 長崎県、「軍艦島」です。かつて、海底炭鉱として栄えた人工島です。

今、世界遺産申請の機運があるとか。無人島、何かもの悲しい感じですよ。

暮れ泥なすむ刻とき薔薇の香の濃くありぬ 会友 平野 昌子

評 初夏の頃、暮れそうで暮れない薔薇園で、一段と香りが濃くなったと

いう微妙な感じを詠み取りました。良い感性です。

【佳作】白薔薇にようとうや如己堂二畳鎮めをり S 30 学機 檜山 邦良

（「永井隆」療養の居、隣は記念館。長崎の被爆へのレクイエムですね）

蜘蛛の囀の顔に纏まとはる古道かな ”

（蜘蛛の巣を払いながら古道を行く作者の様が見えます）

蜘蛛の子のちりぢりとなり親になる 会友 平野 昌子

（蜘蛛の子が自分の袋を破って、四方八方に散るという生態描写です）

束の間の王女でありし薔薇の風呂 穂坂 芳子（邦光氏夫人）

（投句に、七十年前の回想と注書きがあります。その時の気持に帰りましょう）

ありなしの風にも揺るる蜘蛛の糸 ”

（風が無いのに揺れている不思議？。蜘蛛が動き出しましたか）

雪溪の残る浅間に夏来たる S 34 学原 芝山 佑芳

（有名な「逆さ馬」の雪形、作物植え付けの合図だそうです）

「蜘蛛の糸」語りし先生いまは無く ”

（芥川龍之介の作品ですね。読まれた声が懐かしく思い出されます）

捕らえんと蜘蛛身じろがぬ軒端かな S 38 学電 熊谷 文男

（息を殺して獲物を待っている蜘蛛の様子が見えます）

蜘蛛の囀の風捉えんと揺れにけり ”

（これは、揺れている蜘蛛の巣で、前句との対比が面白い）

初夏の風森の縁を走り抜け S 30 学電 綿引 貞男

（サイクリングで、自分も風になって走り抜けましょう）

蜘蛛の糸伸びるよ伸びる宇宙まで ”

（大きく出ましたね、気持ち良い。然し、カンダタにならないようにね）

軒下の風にゆらゆら女郎蜘蛛 S 32 学金 穂坂 邦光

（ちよつと、薄気味悪い風情。然し、良く見ると、実に綺麗な姿です）

初夏やペタルも軽く寺巡り ”

（正に、青い山脈のような情景。御利益も沢山ありますよ）

【選者吟】 初夏や六角堂に忌を修す としを

米海軍基地と紅薔薇相睦む ”

蜘蛛の巣の田毎の月を捕らへけり ”